

伊保内高校学校通信

伊高だより 2月号



明 朗 ・ 創 造 ・ 努 力

編集・発行／岩手県立伊保内高等学校
〒028-6502 岩手県九戸郡九戸村伊保内1-61-12
TEL(0195)42-3121(事務室) 42-3122(職員室)
<http://www2.iwate-ed.jp/ibn-h/>

第2回学校運営協議会

1月12日(本校視聴覚室)

今回の学校運営協議会は、グループでの熟議に挑戦してもらいました。校内外から委員を4グループに分けて、テーマに沿って討論してもらいました。最初は硬かった委員の方々も、時間が進むにつれてリラックスし良い熟議となりました。今後、小中高が一つの学校運営協議会になることと保護者や地域住民の方々と熟議を重ね地域学校協働活動へと発展していければと考えております。熟議の際のメモから書き出してみました。今後、スクール・ポリシーに反映させたいと思います。

テーマ「地域の子供たちがどう育ってほしいか」前半熟議(理想像)

・地域を愛し、貢献できる人・新しいものを創り出す・失敗してもよいから自信を持って取り組める人・与えられるものでなく発想できる力
→ 青年会議所との協働・自信がつく → 進路や村おこし開発に自信が持てる・自立心、自主性を育てる・人材育成につながる環境・新しいものに挑戦するエネルギー・伊高むらおこし会社→盛岡地区でも評判が広まりつつある・地元を愛する子ども・地域の郷土芸能を継承する気持ちを持つ・一度は村外に出て九戸の課題を考える・九戸村の産業を支える気持ちを持つ・高齢者へのいたわりの心を持ち、行動できる・自然を愛する子供になって欲しい・生まれた土地の歴史を学んで欲しい・農業を知り、食べ物を大切にするように・自分の意見をはっきり言う人・人材育成(自信がない)普段の自分から出てこない 小学生に高校生の様子を見せる・小さな学校—マンネリにならないように・積極性のある リーダーシップ コミュニケーション能力向上・人を思いやれる→それを行動に移せる 協力し合える
・歴史を知り、自身のルーツを知る(九戸村の)地域を知る 自然を愛す 農業を学ぶ 情報発信の仕方 通年で地域おこし・歴史を大切にしてほしい(自分のルーツ、村のルーツ)・情報発信、宣伝の仕方 長い目で売れるように・オブチキとか地域とのつながり・県外生のケア 地域とのつながり 九戸まつりに参加するなど・地域のひとあひさつできる・たくましく育ってほしい・明るく育ってほしい・思いやりのある子供に育ってほしい・地域との交流を持つことによりしゃべることコミュニケーションの活性・オブチキ PR・郷土芸能とかで地域と繋がりが持つ・高齢化の進む村にあつて希望のある若い力を発揮してほしい・村民も若い人の力(姿)を見て元気をもらう・地域の人も応援している・自立できる人づくり(自ら考え行動できる人)・小さな村(保育園～小学校～中学校～高校)ほとんど同じメンバーで絆は深い・ふる里や母校を誇りに持てる生徒

後半熟議(実際に私たちが一緒にできることを一緒に考える)

・自信がつくから進学にもプラスになる・郷土芸能 - 自分たちの地域で誇れるものを活動 - 結果的に地元に戻る 外で力を試したい・むらおこし会社 活動実績・PR・大卒の人と競っても 高い目標を持っても良い ライヴは同年代でなく 自分が楽しめる 成果を出せる・創る 農業を発展 作物 植えて良い場所がある・成果→次につながる・高校生の活動を小学生に見せる・自信を持たせる・成果の積み重ね・青年部との連携・県外からの生徒をいかに溶け込ませるか 部活だけではなく他の部分での交流がほしい・地域の方々との関わりを持つ 行事 お祭り・地域に出ていく、つながる・県外→地域の行事に参加 地域とのからみをつくる 一度出て戻れるシステム・寮ができる・地域との関わり・郷土芸能 勉強だけでなく・小中学校の連携 地域との連携・さまざまな年齢の人と触れ合ってほしい・自分の考えを話せる・積極的に地域貢献 神楽、ボランティア・地域にある社会資源を多に活用してほしい・小さな学校小さな村だからそそネットワークを軽く

振り返り・共有

・地域との関わりがある ← 地域貢献・人材育成・大人のルールから自分のことば、自分の力で活動していく = 自立 自信 自ら考える・知一生活していく力 自ら考える まわりの人と共有して高め合う・徳一九戸を思う 自分 まわりを幸せにできる 豊かな発想・体一心と体 たくましい 折れないしなやかな心・小さな村、小さな学校—人間関係が同じ きずなを大切に・～のために学習するモチベーション どういった人生をやりたいか←小・中で学ぶ内容・自己実現の場 - 学習の場が豊富である⇒自立心・創造性・地域貢献できる人材・フリートークでした メモ・記録がなくてすみません。有意義なグループ協議でした。

・A 「小学生から人材育成」、中学、高校、自信のない子供が多い 高校での取組を小学生に見せる機会 人材育成(小学校～中高)足りない「自信」自主性、自立性を育て 高校生→小学生に見せる。(どんなことをしているか)自分で考えることを教える。むらおこしでも発想力が必要。人材育成の目標を持ってやっている 自信が足りないのでは? 会社、神楽 普段からもつてないその場をつくる考えることをさせないといけないのでは?

- ・B 基本的な学力＋生活力 九戸を想う人 自分と自分の周囲の人を幸せにする たくましい心と体・自分を知る 歴史 村を知る・情報発信・郷土芸能、会社 **「体験させる 経験させる システムづくり」** 外からみる うけざら
- ・C 生活していける力、自ら考えて共有して高め合う 知 生活していける力、自ら考え、共有し高め合う 徳 九戸を思う人になってほしい、自分と自分の周りを大切にできる人、幸せにできる人。 体 心と身体、たくましくおれないしなやかな心を持つ 生活していける力 自ら考えて周りの人と共有して高め合う 九戸を思う人になってほしい **「自分と自分の周りの人を幸せにできる」**
豊かな発想を持てる たくましい体 折れないしなやかな心
- ・D 小～高同メンバーできている 人間関係安定
マンネリ化
一体感 きずなを大事に 自分の将来像を持ち学習の中 身を身につける 九戸村は学習の場がたくさんある。村内で職場体験をまかなっている(長所)
- ・D **「小さな学校だからできること」**
きずなを大切に→ふるさとを思う心
「学校で何を学ぶか？」何のために学ぶか？どういうことをやりたいかを逆算して考えていく
学習の場は意外と多い→有効活用のしかた
- ・D 小さな学校だからできること プラスの部分
伊高の取り組み→中学校の取り組みをどうするか 自分の人生をどうするか 自己実現の場 学習の場を有効活用



高校魅力化評価システム

「いわて高校魅力化・ふるさと創生推進事業」の取り組みとして過日実施したアンケート調査の集計結果が、三菱 USJ リサーチ & コンサルティングから報告されました。学校運営協議会委員の方々にもご協力いただきありがとうございました。結果の読み方と総括表を下に示します。皆様のご協力で、次年度に向けた「社会に開かれた教育課程」やスクール・ポリシーの策定に活かせればと考えております。

結果の読み取り方

5つの側面 ①学習活動 ②学習環境 ③生徒の自己能力認識 ④生徒の行動実績 ⑤ウェルビーイング

4つの領域 「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」

3つの軸 「時間軸(前年度からの伸び)」「学年軸(学年による違い)」「地域軸(他地域との比較)」

3つの軸について、「いま」は分かれますが、「変化」は次回以降のアンケート結果に反映されます。

総括表 今回の結果(まとめ)

	主体性	協働性	探究性	社会性
生徒の学習活動	2	3	3	2
学習環境(学びの土壌)	3	4	4	4
生徒の能力認識(生徒の成長)	2	3	2	2
生徒の行動実績	3	3	3	1
生徒のウェルビーイング	2	4	3	1

※肯定的回答割合が50%未満＝1、50～65%＝2、65%～80%＝3、80%以上＝4

ワーク・ショップについて

- (1) 「羅針盤」 ①育成を目指す生徒像 ②目指す生徒像の実現に向けた教育実践
- (2) 見える化 学校の教育活動を視点から「見える化」する
- (3) 高校魅力化評価システムの要素を「繋げて」考える
- (4) 皆で「共有する」
- (5) 次の「一手」を考える

「羅針盤」については、学校運営協議会でのワーク・ショップで取り組んだことです。集計結果を基に現状を把握して、強みや伸びしろへと「繋げて」次年度の教育活動に活かせればと思います。紙面の関係上、総括表しか紹介できませんでしたが、詳細結果をみると本校独自の強みと弱みが見えてきます。強みを伸ばすのも弱みを克服するのも、学校現場だけでは、限界があります。評価結果(エビデンス)を手掛かりとして、学校運営協議会委員の皆さまのご経験の中から生まれる実感・疑問から、結果を読み解き、具体的な行動に繋げましょう。年度内に、校内での分析会を予定しています。この集計結果を基に、気づいた点を校内で共有してみたいと思います。お気づきの点は本校までお知らせください。